平成２年度

（第２回）

農家生活水準向上コース
実施要領

平成２年８月

JICA
100
81
TA
LIBRARY

国際協力事業団
研修事業部

研
JR
90 －10

JICA LIBRARY
1085018[8]
21533
国際協力事業団
21533

目　次

1．コース名等 …… 1
2．コースの目的・背景 …… 1
3．到達目標 …… 2
4．研修項目 …… 2
5．研修員参加資格要件 …… 4
6．研修実施体制及び運営 …… 4
7．研修・宿泊施設 …… 6
8．研修教材・資器材 …… 6
9．研修付帯プログラム …… 7
10．研修の評価 …… 8
11．研修監理員の配置 …… 8

付表－1　平成2年度研修日程 …… 9
付表－2　平成2年度研修員リスト …… 17
付表－3　国別研修員参加実績表 …… 19
付表－4　研修関係者リスト …… 20

1．コース名等

(1) コース名

・和　文：　農家生活水準向上コース

・英　文：　FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT

(2) 研修期間

1990年8月23日（木）から同年11月14日（水）まで

(3) 定　　員

10名

(4) 対 象 国

インド、インドネシア、マレイシア、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリ・ランカ、タイ、ブルネイ、フイジー、パプア・ニューギニア　11ヶ国

2．コースの目的・背景

(1) コースの目的

開発途上国の農村婦人の指導訓練に携わる政府職員（国、州、県）に対し、農村婦人の農産物等の地域諸資源の活用及びこれら実践集団の育成方法等に関して、我が国において今日まで蓄積されている農村婦人による地域振興及び農家生活向上に関する科学的知識・技術を提供すること等により、各国の農村婦人の指導訓練についての企画立案及び普及指導の効果的な推進に寄与することを目的とする。

(2) コースの背景

発展途上国の大半は農業国であり、人口の80％～60％は農村に居住している。これら農村部に居住する農業者の多くは栄養状態の改善や食料の安定確保等の問題を抱えている。この中で農村婦人は、生活と生産の両面で重要な役割を担っているが、とりわけ生活面では旧来からの習慣を受けつぎ、農村の生活水準は依然として低く、その改善が課題となっている。

発展途上国が経済開発を促進するためには、農村婦人の能力と地位の向上

を通じて農村の生活水準を高めることが必要であることが国際的にも認識されるに至っている。

本コースは1980年より実施し、1988年までに14ヵ国から73名の研修生を受け入れた“生活改善普及コース”を対象国の研修ニーズ等の提言を反映し、一層発展させたコースである。生活水準向上に係わる科学的な知識技術の紹介に重点を置き、生活問題を改善するための実践集団育成方法を紹介するなど、より実践的な研修コースとして設定したものである。

3．到達目標

(1) 各国における農村婦人の能力開発に必要な指導訓練のための企画、立案、実施の専門技術及び関連知識等を習得する。

(2) 農家生活水準向上のための科学的技術、主として農産物の加工技術の原理を習得し、自国での活用を図れるようにする。

(3) 経済開発を促進させるためには、その基盤となる農村の生活を高め併せて、人材の育成が大切であることを理解する。

4．研修項目

研　修　項　目	日　数	備　考
1．地域農産物活用等の技術	16 日	
(1) 地域に賦存する農産物等の活用技術	(5.0)	講義、見学、演習
① 身近な生産物を活用した食生活改善	(2.0)	
② 家庭でできる農産物加工の要点	(1.0)	
③ 野菜、芋類の保存加工技術	(1.0)	
④ 大豆、乳製品の加工技術	(1.0)	
(2) 農作業及び生活環境の改善技術	(4.5)	講義、見学、演習
① 生活環境の衛生管理	(2.0)	
② 農作業に関する労働衛生	(2.5)	
(3) 農村婦人による地域資源の発掘と活用活動のすすめ方	(6.5)	講義、見学、演習 ホームスティ
① 特産物づくりの手法とその実際	(0.5)	
② 簡易な加工道具による手づくり加工の実際	(2.2)	
③ 加工施設利用による共同加工の実際	(0.5)	
④ 商品化を目的とした小規模加工の実際	(0.5)	
⑤ 農産物の無店舗販売の実際	(0.5)	
⑥ 自給菜園づくりと地域内農産物の生産・流通・加工の組織化	(1.3)	
⑦ 地域資源活用活動における農協婦人組織等の役割	(1.0)	
2．人材育成・課題研究	11 日	講義、見学、演習
(1) 参加各国の農家生活と活用資源の状況	(2.5)	
(2) 農村婦人リーダー育成と指導計画	(5.0)	
(3) 婦人による地域振興、人材開発指導プログラム作成、演習	(3.5)	
3．日本の農家生活水準向上の要点	5 日	講義、ホームスティ
4．日本語研修	9.5日	
5．ブリーフィング、ジェネラルオリエンテーション、他	17.5日	
計	59 日	

5．研修員参加資格要件

(1) 応募資格要件（G．I．記載）

イ．農村婦人の指導訓練の立案実施に係わる農村社会開発、農村婦人開発、普及等を職務とする国、州、県レベルの政府職員

ロ．女性

ハ．原則として45才以下の者

ニ．十分な英語能力を有する者

ホ．身体的、精神的に健全であって妊娠していない者

(2) 人選方法及び選考基準

参加割当国政府より提出された要請書（A_3 フォーム）に基づき、関係者との協議により人選を行う。

G．I．記載の資格要件を主たる選考基準とするが、参加国のバランスを取る意味から、資格要件に満たない者についても本コースの研修内容に近い業務に従事しており、相手国の推薦順位の高い者については、なるべく多数の国から参加させることを配慮して選考する。

(3) 割当国

インド、インドネシア、マレイシア、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、ブルネイ、フィジー、パプア・ニュギニア

11ヶ国　各1名

6．研修実施体制及び運営

本年研修コースは農林水産省農蚕園芸局婦人・生活課(1)と国際協力事業団(2)との協力により実施する。研修の運営管理については、社団法人農山漁家生活改善研究会(3)に委託する。三者の業務分担は以下のとおりである。

業　　務	農　水　省 婦人・生活課	*1 ＪＩＣＡ	生活改善 研究会
終了証書の発行	◎*2	◎	
参加研修員の選択 研修員の病気、事故、その他トラブルの処理 反省会の開催	○*3	◎	○
Ｇ．Ｉ．（英文募集要項）の作成、発送 実施要領の作成 英文日程表、研修員リストの作成 ブリーフィング、オリエンテーション、日本語講習の準備、実施等 研修員の来日、帰国フライトの手配 研修員への生活費、旅費等の支給 講義通訳		◎	
宿舎、交通機関の手配		◎	○
研修実施予算の作成 テキストの作成、配布、保管等 委託契約の締結		◎	◎
講師の選定、依頼 講義、見学等の依頼文書の発信 研修実施報告書の作成	○		◎
研修プログラム案の検討 研修評価会、閉講式の準備、進行	○	○	◎
研修旅行同行依頼文書の発信		○	◎
研修プログラム原案の作成 補助資料、講義レジュメ等の作成、配布、保管等 視聴覚器材、教材の準備 講師へのオリエンテーション 講義内容、進行の調整 講師への謝金、旅費の支給 見学先との打合わせ 研修資料整理 研修経費の精算			◎

注　＊１　研修監理員（８ページ参照）を含む
　　＊２　◎印は主分担業務を表わす
　　＊３　○印は補助業務を表わす

7．研修・宿泊施設

(1) 研修受入機関

農林水産省農蚕園芸局婦人・生活課

(2) 研修運営委託先機関

社団法人農山漁家生活改善研究会

(3) 研 修 施 設

イ．国際協力事業団東京国際研修センター（略称ＴＩＣ（Ｈ））

住　所：東京都渋谷区西原２－49－５

電　話：03－485－7051（代）

ロ．農林水産省生活技術研修館

住　所：東京都港区六本木１－９－５

電　話：03－584－4633

(4) 宿 泊 施 設

イ．サンルート東京

住　所：東京都渋谷区代々木２－３－１

電　話：03－375－3211

ロ．国際協力事業団東京国際研修センター（略称ＴＩＣ（Ｈ））

住　所：東京都渋谷区西原２－49－５

電　話：03－485－7051（代）

8．研修教材・資器材

(1) 研 修 教 材

テキストを使用する他、各研修項目に従って担当講師の作成した講義資料を使用する。

(2) 研修資器材

講義への理解を深めるため、生活技術実習に際し実習用資器材を使用する。

9．研修付帯プログラム

(1) 集合ブリーフィング（1日間）

来日事務諸手続、滞在諸手当の支給手続、日常生活の一般的留意事項等についての集合ブリーフィングを、原則として来日の翌日に実施する（国際協力事業団・東京国際研修センター）。

(2) ジェネラルオリエンテーション（3日間）

日本滞在中の必要知識として、わが国の現況紹介のためのオリエンテーションを上記集合ブリーフィングの翌日から次の日程にて実施する（国際協力事業団・東京国際研修センター）。

期日／時間	第1日	第2日	第3日
10：00〜12：00	講義A「日本の社会と風土」	講義C「日本の経済」	都内見学バス・ツアー 9：00〜13：00（8:45にロビー集合）
12：00〜13：30	昼休み	昼休み	
13：30〜14：30	日本語会話①	日本語会話②	
14：30〜14：45	休憩	休憩	
14：45〜16：45	講義B「日本の歴史と文化」	講義D「日本の産業技術発展史」	

(3) 日本語集中講習

9月3日から9月7日までは1日5時間、東京国際研修センター（TICH）において、また、9月10日から9月14日まで午後のみ1日3時間、10月22日、23日は1日5時間生活技術研修館において、日本語の基礎及び簡単な

日常会話を習得させる。研修旅行における農家宿泊の際、コーディネーターを介さなくとも簡単な会話を行うことができ、意思の疎通が行えることを目標とし、あわせて実習・講義の効果を高めるために、使用頻度の高い日本語専門用語を学習させる。

10. 研修の評価

研修終了時に評価会を開催し、研修内容、研修の成果等についての意見交換を行う。また、GENERAL EVALUATION SHEET 及び FINAL REPORT を研修員より提出させ、上記評価会における感想、意見、提案等とあわせて、研修員の本研修コースに対する理解程度を総合的に評価するとともに今後の本研修コースの改善のための参考にすることとしている。

なお、研修終了後、しかるべき時期に農林水産省、農山漁家生活改善研究会及び国際協力事業団の各研修関係者により反省会を持ち、今後の本研修コースの改善に資することとする。

11. 研修監理員の配置

国際協力事業団は、研修業務の円滑な遂行のため通訳業務及び業務調整を兼ねた研修監理員を配置する。

付表－1　　平成2年度　研修日程

No. 1

週	月 日	時間帯	研修区分	研修項目	研修場所	研修方法	講師	ねらい
I	8/23 木	全 日	5	来 日	TIC			
	24 金	〃	5	ブリーフィング	〃			
	25 土	〃						
	26 日	〃						
	27 月	〃	5	ジェネラルオリエンテーション	TIC			
	28 火	〃	5	〃	〃			
	29 水	〃	5	〃	〃			
II	30 木	午 前	5	開 講 式	生活技術研修館			
	〃	午 後	5	オリエンテーション、農水省表敬訪問	〃		安孫子 智 恵	コースの目的、背景、到達目標、研修項目等についてオリエンテーションと研修員のコースに対するニーズを明確にする。
	31 金	午 前	5	〃	〃	講 義	〃	
	〃	午 後	5	〃	〃	〃	〃	
	9 / 1 土	全 日						
	2 日	〃						
	3 月	〃	4	日本語研修	TIC			簡単な日本語の会話ができるようにする。
	4 火	〃	4	〃	〃			
	5 水	〃	4	〃	〃			
III	6 木	〃	4	〃	〃			
	7 金	〃	4	〃	〃			
	8 土	〃						
	9 日	〃						
	10 月	午 前	3	農水省の役割、組織	生活技術研修館	講 義	石 川 君 子	農水省の役割、組織等、農政推進の解説（主として婦人に関する）
	〃	午 後	4	日本語研修	〃			
	11 火	午 前	3	日本の農業と農家生活の発展過程	〃	講 義	大 内 雅 利	日本の農業の発展と農家生活の変化・過程を理解する。
	〃	午 後	4	日本語研修	〃			
	12 水	午 前	3	普及事業（婦人・生活）の概要	〃	講 義	大 島 綏 子	普及事業の体制、普及事業の展開過程について理解する。
	〃	午 後	4	日本語研修	〃			
	13 木	午 前	3	農家生活の変化とその適性技術の概要	〃	講 義	水 上 元 子	日本の農家生活の歴史的な変化と生活に関する知識・技術の開発と変遷を理解する。
	〃	午 後	4	日本語研修	〃			
IV	14 金	午 前	3	普及事業（婦人・生活課）の概要	〃	講 義	大 島 綏 子	普及活動の組織と生活改良普及員の役割・活動を理解する。
	〃	午 後	4	日本語研修	〃			
	15 土	全 日						
	16 日	〃						

週	月日	時間帯	研修区分	研修項目	研修場所	研修方法	講師	ねらい
Ⅳ	17 月	午前	3	農家生活水準向上の基本的考え方	生活技術研修館	講義	水上元子	日本の農家生活水準指標策定の概要を理解し、自国の生活水準測定のめやすとする。
	〃	午後	〃	〃	〃	〃	〃	
	9/18 火	午前		移動（埼玉県　武蔵嵐山）				
	〃	午後	2-(2)	館内見学／日本の婦人教育	国立婦人教育会館	見学・講義		国立婦人教育会館の活動と最近における婦人教育の現状を理解する。
	19 水	午前	2-(1)	カントリーレポートの発表と討議	〃	発表・討議	安孫子智恵	研修員の自国における活動内容、農家、農村の現状と指導活動等について発表し、情報交換を行う。さらにコメンターも混じえて現状と問題点を討議する。各自の研修ニーズを明確にする。
	〃	午後	〃	〃	〃	〃	〃	
Ⅴ	20 木	午前	〃	〃	〃	〃	〃	
	〃	午後	〃	〃	〃	〃	〃	
	21 金	午前	〃	〃	〃	〃	〃	
	〃	午後	1-(3)	和紙の里見学／移動		見学		小川町の特産品である和紙の製造工程を見学する。
	22 土	全日						
	23 日	〃						
	24 月	〃						
	25 火	午前	2-(2)	日本の農村婦人組織とその活動	生活技術研修館	講義	斉藤京子	日本の農村婦人の活動と農水省における婦人対策を理解する。
	〃	午後	〃	教育的指導方法	〃	〃	安藤義道	教育的指導方法とは何か原理を理解する。
	26 水	午前	〃	婦人リーダー育成の方法	〃	〃	堀家欣子	農村地域における婦人リーダー育成の手法を理解する。
	〃	午後	1-(3)	地域資源活用活動における農協婦人組織	〃	〃	野口洋子	農協の組織（全国レベル）とその活動を理解する。
Ⅵ	27 木	午前	2-(2)	婦人リーダー育成のための指導計画	〃	〃	堀家欣子	農村地域における婦人リーダー育成のための指導計画の立て方を理解する。
	〃	午後	〃	指導計画の作成	〃	〃	〃	〃
	28 金	午前	1-(2)	農作業に関する労働衛生	〃	講義	芦沢昌子	農薬から身を守るための必要性を理解する。
	〃	午後	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	29 土	全日						
	30 日	〃						
	10/1 月	午前	1-(2)	農薬から身を守るための身仕度	生活技術研修館	講義	芦沢昌子	農薬防除衣の必要を理解し、自国において応用の可能性を考える。
	〃	午後	〃	〃	〃	演習	〃	農薬防除衣を作成する。（一例として）
	2 火	午前		移動（栃木県）				
	〃	午後	1-(1)	乳製品の加工技術	栃木	現地研修		乳製品の加工とその技術を理解し、自国での応用の可能性を考える。
	3 水	午前	1-(3)	地域内農産物の生産・流通・加工	〃	〃		地域農産物の地域内自給の推進・地域産物の点検と利用について理解する。
	〃	午後	〃	商品化を目的とした小規模加工／移動	〃	〃		商品化するための条件づくりを事例を通して理解する。
Ⅶ	4 木	午前	2-(2)	指導計画の作成	生活技術研修館	演習	堀家欣子	研修員が想定する婦人リーダーを育成するための指導計画を作成する。
	〃	午後	〃	日本の農村婦人組織とその活動	〃	講義	山田安子	生活改善実行グループの全国組織とその活動について理解する。
	5 金	午前	1-(2)	生活環境の衛生管理	〃	〃	小野二良	農家・農村の居住環境の課題と対策について理解する。
	〃	午後	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	6 土	全日						
	7 日	〃						
	8 月	午前	1-(1)	身近な生産物を活用した食生活改善	生活技術研修館	講義	足立己幸	食改善のための総合的な知識と課題・対策について理解する。

週	月 日	時間帯	研修区分	研修項目	研修場所	研修方法	講師	ねらい
VII	10/ 8 月	午後	1-(1)	身近な生産物を活用した食生活改善	生活技術研修館	講義	足立己幸	健康的な食生活について理解する。
	9 火	午前	〃	家庭でできる農産物加工の要点	〃	〃	吉田企世子	家庭でできる農産物加工の基本的な知識を理解する。
	〃	午後	〃	〃	〃	演習	〃	野菜・果物の特性を実験を通して理解する。
	10 水	全日						
VIII	11 木	午前	2-(2)	指導計画の作成	生活技術研修館	講義	堀家欣子	婦人リーダー育成のための条件と自国での可能性を考える。
	〃	午後	1-(2)	農作業に関する労働衛生	〃	〃	吉田政雄	農作業に起因する健康障害とその対策を理解する。
	12 金	午前		移動（千葉県）				
	〃	午後	1-(3)	地域資源活用活動における農協婦人組織	千葉県	現地研修		農協の組織（地方レベル）と農協婦人部の活動、農協の開発品が生まれるまでの過程を理解する。
	13 土	全日						
	14 日	〃						
	15 月	午前	1-(1)	身近な生産物を活用した食生活改善	生活技術研修館	講義	足立己幸	食改善のためのポスターを作成し、ロールプレイングによるポスターの説明を行い食改善のための技術を理解する。
	〃	午後	〃	〃	〃	〃	〃	
	16 火	午前	1-(2)	生活環境の衛生管理	〃	〃	小林周子	集落環境の点検の手法を理解する。
	〃	午後	〃	〃	〃	〃	〃	手づくりの村のすすめ方について理解を深めｽﾊﾟｲﾀﾞｰｸﾞﾗﾌの作成をする。
	17 水	午前	1-(3)	移動（神奈川県）				
	〃	午後	〃	地域内農産物の生産・流通・加工	神奈川	現地研修		生活改善グループによる地域内農産物の生産・流通・加工を事例を通して理解する。
IX	18 木	午前	2-(3)	婦人による地域指導・人材開発指導	生活技術研修館	講義	安孫子智恵	農村婦人の人材開発プログラムの可能性とそのプロセスを理解する。
	〃	午後	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	19 金	午前	2-(3)	〃	〃	〃	〃	農村婦人の人材開発プログラムの作成について理解する。
	〃	午後	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	20 土	全日						
	21 日	〃						
	22 月	午前	4	日本語講習	生活技術研修館			ホームスティにおいて、農家生活を体験学習するための必要な日本語の会話講習を行う。
	〃	午後	〃	〃	〃			
	23 火	午前	〃	〃	〃			
	〃	午後	〃	〃	〃			
	24 水	午前		移動（和歌山）				
	〃	午後		県庁表敬訪問／日程説明／懇談会	和歌山			
X	25 木	午前		移動／県事務所　表敬訪問	〃			
	〃	午後	1-(1) 1-(3)	芋類の保存加工技術／手づくり加工の実際	〃	現地研修		芋類の加工とその技術を理解する／簡単な道具を使って木工品を作成する。
	26 金	午前	1-(3)	農産物の無店舗販売の実際	〃	〃		無店舗販売の種類と開設のための準備、推進の方法を理解する。
	〃	午後	〃	自給菜園づくり／野菜の保存加工技術	〃	〃		農家における自給計画と自給菜園づくり／野菜の保存加工技術を理解する。

週	月 日	時間帯	研修区分	研 修 項 目	研修場所	研修方法	講 師	ね ら い
X	10/27 土	午 前	1-(3)	特産物づくりの手法とその実際	和 歌 山	現地研修		地域の特性をふまえた特産物づくりの手法（条件、開発の過程）を理解する。
	〃	午 後	〃	手づくり加工の実際	〃	〃		簡単な道具を使った手づくり加工の実際を見学・実習する。
	28 日	全 日		市内視察	〃	〃		市内を見学する。
	29 月	午 前	1-(3)	日本の農業・農家生活／簡単な加工道具による手づくり加工	〃	ﾎｰﾑｽﾃｨ		ホームスティによる農家生活と農業の体験学習を行い、日本の農業・農家の現状を理解する。 農家主婦の指導による簡単な道具を使って手づくり加工の実習を行い、自国で応用できる技術の可能性を探る。
	〃	午 後	〃	〃	〃	〃		
	30 火	午 前	〃	〃	〃	〃		
	〃	午 後	〃	〃	〃	〃		
	31 水	午 前	〃	〃	〃	〃		
	〃	午 後	〃	〃	〃	〃		
XI	11/ 1 木	午 前	2-(2)	農村婦人の集団指導の進め方	〃	現地研修		生改がグループ指導をしている現場を参観し、普及指導計画の重要性と集団指導のすすめ方を理解する。
	〃	午 後	1-(1)	大豆の加工技術／共同加工の実際	〃	〃		大豆の知識と加工技術を理解する／共同加工の実際を理解する。
	2 金	午 前	1-(3)	地域内農産物の加工・流通の実際	〃	〃		地域内農産物の加工、流通の実際を理解する。
	〃	午 後		移 動				
	3 土	全 日						
	4 日	〃						
	5 月	午 前	5	ミーティング	生活技術研修館	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ	安孫子 智 恵	現地研修のまとめと見聞・理解したことについて話し合う。
	〃	午 後	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	6 火	午 前	2-(3)	人材開発プログラム作成	〃	講 義	〃	研修員が帰国後必要とする課題についてレポート作成の指導を受ける。
	〃	午 後	3	農家生活水準向上の基本的考え方	家族計画財団	〃	家族計画財団	日本の家族計画（戦後から現在まで）の普及の方法を理解する。
	7 水	午 前	2-(3)	人材開発プログラム作成	生活技術研修館	演 習	安孫子 智 恵	研修員が必要とする課題についてレポート作成を行う。
	〃	午 後	〃	〃	〃	〃	〃	〃
XII	8 木	午 前	5	レポート発表	〃	発表・討議	〃	研修員が作成したレポートを発表し、帰国後の研修員の役割について意見交換を行う。
	〃	午 後	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	9 金	午 前	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	〃	午 後	〃	評 価	〃	討 議	〃	コースのカリキュラム、内容、講師、研修員のニーズについて評価を行う。
	10 土	全 日						
	11 日	〃						
	12 月	〃	5	帰国準備				
	13 火	午 前	〃	閉 講 式	生活技術研修館			
	〃	午 後	〃	懇 親 会	麻布ｸﾞﾘｰﾝ会館			
	14 水	全 日	〃	帰 国				

付表－2　　平成2年度　農家生活水準向上コース研修員リスト

No.	Country (国　名)	Name (氏　名)	Date of Birth (生年月日)	Present Post & Employer (現職ならびに勤務先)
1	India インド	MS. Suvasree Sen	Nov. 11, '51 (38 才)	Special Officer Womens Development EX-Officio Dy. Directer Sericulture
2	Indonesia インドネシア	MS. Hermien Iswati, SE	May. 18, '55 (35 才)	Chief of Sub Division for Office Aparatures Secretariat General Department Coop.
3	Malaysia マレイシア	MS. Azizah Md Jan	Feb. 1, '54 (36 才)	Agricultural Officar Director General Dept. of Agriculture
4	Malaysia マレイシア	MS. Kamariah Bt. Kadiman	Aug. 19, '54 (36 才)	Asistant Agricultural Officer
5	Nepal ネパール	MS. Amalawati Gupta	Jan. 1, '57 (33 才)	Asst. Instructer Women Training Centre. Ministry of Local Development
6	Pakistan パキスタン	MS. Zakia Khanum	Apr. 6, '49 (41 才)	Systems Analyst
7	Philippines フィリピン	MS. Luz O. Taruc	Mar. 3, '59 (31 才)	Agricultural technologist Dept. of Agriculture
8	Philippines フィリピン	MS. Lolita B. Saguiped	Out. 18, '55 (34 才)	Instructure Ⅲ Nueva Viscaya State Institute of Technology

No.	Country (国　名)	Name (氏　名)	Date of Birth (生年月日)	Present Post & Employer (現職ならびに勤務先)
9	Sri Lanka スリ・ランカ	MS. Peuma Edirisinghe	Jul. 13, '53 (37 才)	Development Officer Women's Bureau of Sri Lanka
10	Tailand タ　イ	MS. Ramchai Sutthananta	Jun. 1, '62 (28 才)	Public Relations Technical Division Cooperative Promotion Department
11	Brunei ブルネイ	MS. Hajah Halimah Binti Ahmad	Nov. 2, '63 (26 才)	Agriculture Asistant Department of Agriculture Ministry of Industry & Primary Resources
12	Fiji フィジー	MS. Mere Rokodana Nauluvula	Feb. 17, '49 (41 才)	Community/Field Worker Developing Self Sufficient Project
13	Papua New Guinea パプア・ニューギニア	MS. Jane Tueni Cooke	Jun. 4, '46 (43 才)	Community Development Officer Ward Administration Womens Division

付表－3　国別研修員参加実績表

国　　名	元　　年
インド	2
インドネシア	1
マレイシア	1
ネパール	1
パキスタン	1
フィリピン	1
スリランカ	1
タイ	2
フィジー	1
パプア・ニューギニア	1
トンガ	1
合　　計	13

付表－4　研修関係者リスト

農林水産省

婦人・生活課長	大島綏子
生活技術研修館長	田村久子
婦人・生活課普及指導官	石原清史
国際協力課長	三宅輝夫
海外技術協力室長	大川義清
国際協力課課長補佐	鈴木雅行
国際協力課係長	小宮山　博
農産課課長補佐	澤田　清
農産課専門官	石川君子

国際協力事業団

研修事業部長	御手洗章弘
研修第一課長	山口三郎
研修第一課長代理	村上　博
研修第一課	松井禎子
研修監理員	斎藤迪代
研修監理員	益田　薫

農山漁家生活改善研究会

会長	山本松代
専務理事（事務局長）	堀家欣子
コース・リーダー	安孫子智恵
主事（コース担当）	古田由美子

（敬称略）